

保 育 科

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
EEC-5-M-1	保育のこころ	小笠原眞弓 西原弘、桑原徹也 大道えりつ	1	演習	保育	前期	必修
授業の概要とキーワード	信愛・保育科の教育理念の体得をめざし、保育のこころと奉仕の精神を理解する。また、保育者を 目指すために必要とされる基礎技術や、保育現場に入るための保育学生としての基本的な心得を身 に付ける。そして、近隣地域保育施設の体験を通して、和歌山の保育の実状と課題を発見する。 『オムニバス方式』【現場体験、保育の心得、子ども理解】						
実務経験と 教授内容	保育所・認定こども園において現場体験を行う。			アクティブラーニング	フィールドワーク		
				地域の学修	○		
関連する DP	【DP2】専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	愛情を持った子どもとの関わりを大切にし、課題に取り組むことができる。						
○ 知識・理解	子どもを理解し、一人ひとりの状況に応じた適切な対応の重要性を学ぶ。						
△ 態度・志向	キリスト教の教えに根ざした保育のこころを理解できる。						
△ 態度・志向	将来保育者となる自覚を持ち、生涯学び続ける態度を養うことができる。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分			
1	本学保育者養成の教育理念と学びの計画 オリエンテーション(小笠原)			8	現場体験Ⅱ 和歌山市及び、近隣地域の保育所 (園)、認定こども園で保育を体験(巡回担当教員)		
2	マナー講座 手作り名札制作の説明(小笠原)			9	現場体験Ⅱ 和歌山市及び、近隣地域の保育所 (園)、認定こども園で保育を体験(巡回担当教員)		
3	附属幼稚園の理解と心得(小笠原)			10	現場体験Ⅱ 和歌山市及び、近隣地域の保育所 (園)、認定こども園で保育を体験(巡回担当教員)		
4	附属幼稚園の見学(授業担当者、保育科一年担任)			11	現場体験Ⅰ・Ⅱの学びの共有 グループディスカッション・発表(西原)		
5	手作り名札の制作(小笠原)			12	現場体験Ⅲ 和歌山市及び、近隣地域の保育所 (園)、認定こども園で保育を体験(巡回担当教員)		
6	手作り名札の制作、提出(小笠原)			13	現場体験Ⅱ 和歌山市及び、近隣地域の保育所 (園)、認定こども園で保育を体験(巡回担当教員)		
7	現場体験Ⅰ 和歌山市及び、近隣地域の保育所 (園)、認定こども園で保育を体験(巡回担当教員)			14	まとめ(西原)		
評価方法 と 基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	課 題	知識・理解	子どもと関わり、保育を体験する中で課題を探求できたか				50%
		知識・理解	一人ひとりの子どもに合った適切な対応ができたか				30%
		態度・志向	保育学生として専門職に必要な態度や姿勢が身についたか				10%
平常点	態度・志向	学習や活動に積極的に取り組むことができたか				10%	
教科書	必要に応じて資料を配付する。						
参考書	「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「幼稚園教育要領」フレーベル館						
課題・試験等の フィードバック	レポートはコメントをつけて返却する。						
予習・復習の 内容と時間	予習:保育現場で役立つ絵本、手遊び、折り紙等を習得しておく。60分 復習:体験した学びを振り返り、文章化しレポートにまとめる。60分						
免許・資格	特になし						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	いつでも研究室へ直接						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
IEC-5-M-2	基礎ゼミ	小笠原眞弓 保育科教員	1	演習	保育	前期	必修
授業の概要と キーワード	近隣地域保育施設の体験を通して、和歌山の保育の実状を理解し課題を見つける。学習に必要な基礎的能力である「課題探究の能力」、「テーマに沿った文章を作成する能力」の獲得を図るとともに、子どもや保育に対する関心を持ち、理解を深め、次年度の卒業研究に繋げる。 『オムニバス方式』【現場体験、子ども理解、課題発見】						
実務経験と 教授内容	保育所・認定こども園において現場体験を行う。			アクティブラーニング	フィールドワーク		
				地域の学修	○		
関連する DP	【DP2】専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	子どもの成長・発達について理解し、状況に応じて適切に対応できる。						
○ 態度・志向	保育者を目指すものとしての自己課題を認識できる。						
△ 思考・判断	子どもに関する課題に取り組み、探求する態度を身につける。						
△ 態度・志向	実体験をレポートにまとめる能力を身につける。						
回	授業のテーマ及び内容	各回 100分					
1	オリエンテーション 現場体験の意義・目的(小笠原・金谷)	8	現場体験Ⅱ 和歌山市及び、近隣地域の保育所(園)、認定こども園で保育を体験(巡回担当教員)				
2	乳児の発達と理解について 0・1・2歳児の特徴・基本的な養護技術(小笠原)	9	現場体験Ⅱ 和歌山市及び、近隣地域の保育所(園)、認定こども園で保育を体験(巡回担当教員)				
3	幼児の発達と理解についてⅠ 3・4歳児の特徴(小笠原)	10	現場体験Ⅱ 和歌山市及び、近隣地域の保育所(園)、認定こども園で保育を体験(巡回担当教員)				
4	幼児の発達と理解についてⅡ 5・6歳児の特徴(小笠原)	11	現場体験Ⅰ・Ⅱの学びの共有 グループディスカッション・発表(西原)				
5	現場体験の心得Ⅰ 事務手続き・参加準備(小笠原・金谷)	12	現場体験Ⅲ 和歌山市及び、近隣地域の保育所(園)、認定こども園で保育を体験(巡回担当教員)				
6	現場体験の心得Ⅱ 現場体験に向けての心構えを確認(小笠原・金谷)	13	現場体験Ⅱ 和歌山市及び、近隣地域の保育所(園)、認定こども園で保育を体験(巡回担当教員)				
7	現場体験Ⅰ 和歌山市及び、近隣地域の保育所(園)、認定こども園で保育を体験(巡回担当教員)	14	現場体験の振り返り(西原)				
評価方法と 基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	課 題	知識・理解	子ども理解を深め、適切な対応を心掛けることができたか				50%
		態度・志向	課題に対して、意欲的に取り組むことができたか				30%
		思考・判断	理論と実体験を統合し、レポートを作成できるか				10%
平常点	態度・志向	課題発見に向け、意欲的に学ぼうとする姿勢がみられたか				10%	
教科書	必要に応じて資料を配付する。						
参考書	「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館						
課題・試験等の フィードバック	レポートは次回の授業までにコメントをつけて返却する。						
予習・復習の 内容と時間	予習:保育現場で提供できる遊びを準備する。60分 復習:授業の内容を振り返り、まとめる。60分						
免許・資格	特になし						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	いつでも研究室へ直接						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
EEC-5-M-1	保育者論	西川厚子	2	講義	保育	前期	必修
授業の概要とキーワード	<p>幼児期の教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることを踏まえ、その保育に当たる者に求められる資質能力について学び、考え、ディスカッションを行う。幼児への目線、姿勢、幼児の思いの捉え方などについて考えることを通して、保育者としての思考の習慣を培うとともに、保育者としての自覚を形成する。</p> <p>【保育者の役割と倫理、制度的位置づけ、専門性、連携・協働、専門職的向上】</p>						
実務経験と教授内容	小学校及び教育委員会での勤務経験を持つ者が、子どもの捉え方や保育者の役割、職務内容等について授業を行う。			アクティブラーニング	グループワーク		
関連する DP	【DP2】専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	保育者の役割、倫理、制度的な位置づけ、協働、専門的成長について理解している						
○ 態度・志向	保育者の資質について考え、学び続けようとする態度が身に付いている						
△ 思考・判断	保育者としての倫理思考力、問題解決能力が身に付いている						
△ 態度・志向	チーム、保護者、地域社会との連携の重要性を理解し実践しようとする姿勢が身に付いている						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分			
1	オリエンテーション 「到達目標の確認と学びの見通し」			8	保育者のまなざしと役割(1)「子どもの思いを捉えるということ」 ～ビデオカンファレンス～		
2	「保育者になる」ということ 「制度的位置づけと保育者として働く目的」			9	保育者のまなざしと役割(2)「子どもの遊びの中にある学び」 ～ビデオカンファレンス～		
3	保育現場が求める保育者像 「保育者の役割と倫理(外部講師)」			10	保育者のまなざしと役割(3)「子どもの主体性と保育者の意図」 ～ビデオカンファレンス～		
4	保育者の一日 「具体的な仕事の流れに見る保育者のまなざし」			11	保護者や家庭と一緒に歩む		
5	保育者に求められる資質・能力とは(1) 「育ての心(倉橋惣三)」から保育者を考える			12	チームの中で学び合い・育ち合う保育者 「保育の場における保育者の成長と同僚性」		
6	保育者に求められる資質・能力とは(2) 「子どもと一緒に心と体を動かすということ」			13	学び続ける保育者 「保育実践報告を通して学ぶ(外部講師)」		
7	保育者に求められる資質・能力とは(3) 「豊かな文化や自然との出会いをつなぐということ」			14	理想の保育者像 ～プレゼンテーションとまとめ～		
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	期末試験	知識・理解	保育者の役割と倫理、義務、専門性等について理解しているか				60%
	課題	思考・判断	保育者としての専門性や愛情に基づいた適切な対応について判断できるか				10%
	平常点	態度・志向	保育者に求められる資質について考えるとともに学び続けようとする姿勢が身に付いているか 課題について主体的・協働的に考え、追求しようとする態度が身に付いているか				20% 10%
教科書	「新しい保育講座2 保育者論」 汐見稔幸・大豆生田啓友 編著 ミネルヴァ書房						
参考書	保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、幼稚園教育要領解説						
課題・試験等のフィードバック	理解度確認テストを回収後、解答の解説を行う。レポートやグループワークでの意見に対し肯定的評価を行う。						
予習・復習の内容と時間	・学んだことを省察しレポートを作成すること。120分 ・事前に示される課題について教科書、参考書、新聞等の資料を読み、自分なりの考えや疑問などを持っておくこと。120分						
免許・資格	幼稚園教諭2種免許状必修科目、保育士資格必修科目、認定ベビーシッター資格必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	授業終了後に教室で質問を受け付ける。						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
EEC-5-M-1	教育原理	細田能成	2	講義	保育	前期	必修
授業の概要とキーワード	教育の歴史や学校教育等の変遷を理解し、教育の基本概念について学ぶ。また、学校教育の現状と課題を把握し、その改善や課題解決に向けての考察を行い、学校園や教師のあり方等を追求する。【教育とは、学校とは、教師とは何かについての考察】						
実務経験と教授内容	教職大学院における現職教員等への講義経験を生かし、日本の学校園の歴史と教育実践の変遷について教授する。			アクティブラーニング	グループワーク		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP2】 専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	子どもに寄り添い大切に保育するための基礎的な知識を理解・習得している。						
○ 知識・理解	保育現場や学校の実践事例から学び、子どもを深く理解する能力が身についている。						
△ 思考・判断	教育の現状と課題を認識し、状況の改善や課題解決について考察することができる。						
△ 態度・志向	教育への使命と責任を感じ、自ら学び続けようとする姿勢が身についている。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分			
1	教員養成における教育原理の意味 —自ら学び続ける教師の育成と教育原理—			8	アメリカの教育制度と学校園(2) —学校改革の動向と教育の現状—		
2	日本の近代化と学校教育(1) —日本の近代公教育制度・教育勅語体制の成立—			9	保育所・幼稚園・学校の役割と保育士・教師の仕事 —子どもと教師が学び合う保育所・学校園—		
3	日本の近代化と学校教育(2) —日本の産業革命進行下の教育・戦時下の教育—			10	学力をめぐる学習指導要領の歴史 —学習指導要領の改訂と教育行政の施策—		
4	日本の学校園教育の新たな出発 —戦後の教育改革と新教育の実践—			11	生き抜く力を育てる学校園教育 —受講生の生きる力のイメージとPISAの学力観—		
5	イギリスの教育制度と学校園(1) —学校園の風景とその特色—			12	教育問題の教育原理からの考察 —子どもを取り巻く諸問題の解決を目指す学校園—		
6	イギリスの教育制度と学校園(2) —学校改革の動向と教育の現状—			13	教育実践の検討 —遊びや絵本による心の教育・学校の道徳教育—		
7	アメリカの教育制度と学校園(1) —学校園の風景とその特色—			14	まとめと総括 —講義に関する学生の感想・考え・授業評価—		
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	期末試験	知識・理解	・子どもを大切に保育するための基礎的な知識を理解、習得しているか				50%
	課題・小テスト	知識・理解	・自らの力で考え、適切な文章表現を用い、レポートを作成できるか				30%
		思考・判断	・レポートや発表において、課題に対する論理的な考察を展開できるか				10%
平常点	態度・志向	・意欲的に受講し、主体的にグループワークに取り組み、積極的に学ぼうとしているか				10%	
教科書	特になし *授業時に適宜配付するプリントや参考資料						
参考書	「はじめての子ども教育原理」福元 真由美(東京学芸大学准教授)／編 有斐閣スタジオ 「子どもはみんな問題児。」中川 李枝子(童話・絵本作家)／編 新潮社						
課題・試験等のフィードバック	・期末試験については、解説の時間を設け、学生のよくできた答案をクラスに紹介する。 ・提示した課題については、授業開始時に回収し、次回の授業で解答を検討する。						
予習・復習の内容と時間	・グループワークのテーマについて調べ、自分の考えをまとめておく。120 分 ・授業において活用したプリントや参考資料を見直し、学びの定着を図る。120 分						
免許・資格	幼稚園教諭 2 種免許状必修科目、保育士資格必修科目、認定ベビーシッター資格必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	授業終了後に教室で質問を受け付ける						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
EEC-5-M-1	保育原理 I	小笠原眞弓	2	講義	保育	前期	必修
授業の概要とキーワード	各回のテーマに沿って保育に関する基礎を学び、内容を理解する。授業を通して、保育という営みは人を育てる仕事であり、保育を学ぶということは、保育を通して人間の教育を学ぶことであることに考えを深める。【子ども理解、教育的愛情、保育・教育、乳幼児期、保育所保育指針】						
実務経験と教授内容	該当なし			アクティブラーニング	グループワーク		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP2】専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	保育・教育の本質を学び、子どもへの愛情を深める。						
○ 知識・理解	乳幼児期の教育が教育の原点であることを理解できる。						
△ 思考・判断	保育の現状や今後の課題について考えることができる。						
△ 態度・志向	保育という営みに魅力を感じ、保育者になる自覚をもつことができる。						
回	授業のテーマ及び内容	各回 100 分					
1	オリエンテーション・保育とは	8	保育における健康・安全の重要性				
2	保育の基盤としての子ども観	9	多様な子どもの保育について				
3	保育における子ども理解	10	保育の歴史と思想について				
4	子どもが育つ環境の理解	11	保育者に求められるもの				
5	保育の基本と保育内容 保育所保育指針・幼稚園教育要領	12	現代の子育てと子育て支援				
6	子どものための保育方法	13	保育の現状と課題				
7	保育の計画と実践の原理	14	まとめ				
評価方法と基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	期 末 試 験	知識・理解	保育・教育の本質を理解できているか				50%
		知識・理解	乳幼児期の教育について理解しているか				30%
	課 題	思考・判断	学んだ知識を利用して考察を行い、レポートを作成できるか				10%
平 常 点	態度・志向	積極的に学ぼうとする姿勢が身についているか				10%	
教科書	「保育原理」 渡邊英則 他編著 ミネルヴァ書房						
参考書	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領						
課題・試験等のフィードバック	課題については、次回の授業でコメントを行い返却する。						
予習・復習の内容と時間	予習:教科書の次回の授業範囲を読み、分からない語句を調べておく。また、子どもニュースに関心を持つ。120 分 復習:授業を振り返り、配付プリントを見直し整理、ノートもまとめておく。120 分						
免許・資格	保育士資格必修科目、認定ベビーシッター資格必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	昼休憩時間および放課後、研究室へ直接						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
SWE-5-M-1	社会的養護 I	桑原徹也	2	講義	保育	後期	選択
授業の概要とキーワード	保育士や児童指導員としての基礎的知識や基本原則、その体系、各児童福祉施設におけるその内容、施設職員としてのあり方、そこで暮らす子どもたちの実際の姿と支え方について事例やVTRを交え理解や認識を深める。【児童福祉法、子ども虐待、里親、権利擁護】						
実務経験と教授内容	児童福祉施設での勤務経験を有する教員が、その経験を活かして、基礎的知識および現場の実際を教授する。			アクティブラーニング	ディスカッション		
関連する DP	【DP2】 専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	社会的養護の意義と制度を理解する。						
○ 知識・理解	社会的養護を必要とする子どもたちの背景について理解する。						
△ 思考・判断	子どもを権利の主体者として、その権利を擁護するための知識を身につける。						
△ 態度・志向	地域社会の一員として、子どもたちをすこやかに育む力を身につける。						
回	授業のテーマ及び内容	各回 100 分					
1	社会的養護の理念と概念	8	社会的養護の専門職・実施者				
2	社会的養護の歴史の変容	9	施設養護の基本原則 ～運営指針と第三者評価～				
3	児童家庭福祉の一分野としての社会的養護	10	施設養護の実際 ～入所から退所まで～				
4	児童の権利擁護と社会的養護	11	施設養護とソーシャルワーク				
5	社会的養護の制度と法体制	12	施設等の運営管理の現状と課題				
6	社会的養護の仕組みと実施体系	13	被措置児童等の虐待防止の現状と課題				
7	家庭養護と施設養護	14	社会的養護と地域福祉の現状と課題				
評価方法と基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	期 末 試 験	知識・理解	社会的養護に関する基礎知識知識を習得しているか				50%
		知識・理解	子どもの生育と発達について理解しているか				30%
	課 題	思考・判断	子どもとその家族のニーズを理解し、適切な解決策を提案できるか				10%
平 常 点	態度・志向	積極的に学ぼうとする姿勢が身についているか				10%	
教科書	新・基本保育シリーズ6「社会的養護 I」 中央法規						
参考書	特になし						
課題・試験等のフィードバック	毎回の小テストは次回の授業でコメントと共に返却する。 定期試験終了後、模範解答を配付する。						
予習・復習の内容と時間	予習:教科書の次回授業範囲を読み、分からない言葉を調べておく。 120 分 復習:授業内容を振り返り、ワークシートを見直しておく。 120 分						
免許・資格	保育士資格必修科目、認定ベビーシッター資格必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	毎週水曜日 昼休憩時間 桑原研究室へ直接						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
SWE-5-M-1	子ども家庭福祉	西原弘	2	講義	保育	前期	必修
授業の概要とキーワード	<p>子どもを取り巻く様々な問題(児童虐待、DV、いじめ等)考えていく上で、必要な知識を学習し、実際に起きている事柄を分析できる力を身につけていく。子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷、保育との関連性及び児童の人権について学ぶと共に、子ども家庭福祉の制度や実施体系、現状と課題、子ども家庭福祉の動向と展望についての理解を目指す。</p> <p>【児童虐待、DV、いじめ、不登校、障害児、母子保健、ひとり親家庭】</p>						
実務経験と教授内容	教育委員会指導主事・児童相談所勤務経験を有する教員が、現場の実践事例を織り込みながら授業を行う。			アクティブラーニング	双方向アンケート		
関連する DP	【DP2】 専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎	知識・理解	子どもの最善利益を尊重する視点を持つことができる。					
○	知識・理解	子どもや家庭を取り巻く様々な問題に関心を持つことができる。					
△	思考・判断	子ども家庭福祉の制度や機関サービスを体系的に理解できる。					
△	態度・志向	児童福祉に関する専門職としての自覚を持つことができる。					
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分			
1	子ども家庭福祉の理念と概念			8	多様な保育ニーズへの対応 ～様々な保育ニーズに対応する仕組み～		
2	子ども家庭福祉の歴史の変遷と諸外国の動向 ～保護から支援への時代変化を知る～			9	子ども虐待・DVとその防止 ～子ども虐待・DV の仕組みと防止および支援～		
3	子どもの人権擁護 ～児童の権利条約のしくみを中心に～			10	貧困家庭・外国籍の子どもと家族への対応 ～格差と貧困に目を背けない～		
4	子ども家庭福祉の制度と実施体系 ～法律や制度、児童相談所に関する理解～			11	社会的養護 ～社会的養護を必要とする子どもの理解～		
5	子ども家庭福祉の施設と専門職 ～児童福祉施設と保育士の役割～			12	支援を必要とする子どもへの理解(1) ～障害のある子どもへの支援～		
6	少子化と地域子育て支援 ～少子高齢化の要因と子育て支援～			13	支援を必要とする子どもへの理解(2) ～いじめ・不登校、非行問題への対応～		
7	母子保健と子どもの健全育成 ～妊娠期から学童期までの支援体制～			14	地域における連携・協働とネットワークおよび子ども家庭福祉の動向と展望		
評価方法と基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	期 末 試 験	知識・理解	子ども最善の利益を守るための考え方や仕組みを理解できているか				40%
		知識・理解	連携・協働を意識した専門機関の活用方法がわかるか				10%
	課 題	知識・理解	レポートにおいて、自分の考えをまとめ、論理的に考察を展開できるか				30%
思考・判断		適切な文章表現を用いて、レポートが作成できるか				10%	
平 常 点	態度・志向	積極的に学ぼうとする姿勢が身についているか				10%	
教科書	新・基本保育シリーズ 3「子ども家庭福祉」 中央法規						
参考書	特になし						
課題・試験等のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・課題は次の授業で返却し、記載内容について感想や気づいた点について触れる。 ・期末試験終了後、採点講評を掲示する。 						
予習・復習の内容と時間	各講義終了後、学習内容を復習する(90分)とともに、次の講義への準備を行うこと。(キーワード検索60分、教科書を読み込み、用語の意味をまとめる(90分))						
免許・資格	保育士資格必修科目、認定ベビーシッター資格必修科目						
受講要件等	<ul style="list-style-type: none"> ・1年後期開講科目「社会福祉」・「社会的養護Ⅰ」につながる知識となることを意識する。 ・毎回資料を配付するので、綴じるためのファイルを用意すること。 						
オフィスアワー等	毎週火・金曜日の放課後 及び 事前に予約した日時						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
SWE-5-M-2	社会福祉	桑原徹也	2	講義	保育	後期	選択
授業の概要とキーワード	福祉専門職である保育士が学ぶべき社会福祉の基礎的な知識を解説する。子どもの福祉のみならず、家庭を取り巻く現代社会のニーズに即したあらゆる人々の福祉をいかに実現させるかという視点に立ち広い視野での社会福祉について理解を促す。 【社会保障、インクルーシブ社会、障害、高齢者、人権】						
実務経験と教授内容	社会福祉施設での勤務経験を有する教員が、その経験を活かして、社会福祉の理念、仕組みの基礎を教授する。			アクティブラーニング	ディスカッション		
関連する DP	【DP2】 専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	子どもとその家庭を支える社会資源について理解する。						
○ 態度・志向	社会福祉を推進する主体としての自己認識を持つことができる。						
△ 思考・判断	人間の多様性に気づき、価値あるものとして認識することができる。						
△ 技能・表現	社会福祉の知識を保育現場での課題解決に活用することができる。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分			
1	社会福祉の捉え方			8	障害のある人の福祉(1) ～障害理解～		
2	社会福祉の歴史 ～イギリスの歴史・日本の歴史～			9	障害のある人の福祉(2) ～制度と自立支援～		
3	社会福祉の範囲と法体制			10	高齢者の福祉(1) ～高齢に関する疾患・認知症～		
4	社会福祉の実施体制と財源			11	高齢者の福祉(2) ～制度とケアシステム～		
5	社会保障制度(1) ～社会保険制度～			12	地域福祉		
6	社会保障制度(2) ～公的扶助制度～			13	専門職とソーシャルワーク		
7	子どもと家庭の福祉			14	まとめ		
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	期末試験	知識・理解	社会福祉に関する基礎的知識を習得できているか				60%
	課題	態度・志向	対象者とその家族の想いを理解する姿勢が身についているか				20%
	小テスト	思考・判断	社会福祉の課題に関し適切な解決策を提案できるか				10%
	平常点	態度・志向	積極的に学ぼうとする姿勢が身についているか				10%
教科書	特になし(プリントを配付する)						
参考書	新・基本保育シリーズ 4「社会福祉」 中央法規						
課題・試験等のフィードバック	毎回の小テストは次回の授業でコメントと共に返却する。 定期試験終了後、模範解答を配付する。						
予習・復習の内容と時間	予習:配付プリントの次回授業範囲を読み、分からない言葉を調べておく。 120 分 復習:授業内容を振り返り、ワークシートを見直しておく。 120 分						
免許・資格	保育士資格必修科目、認定ベビーシッター資格必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	毎週水曜日 昼休憩時間 桑原研究室へ直接						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
EPS-5-M-1	保育の心理学 I	森定美也子	2	講義	保育	前期	必修
授業の概要とキーワード	乳幼児を理解するための「人間関係の成り立ち」について発達を迫って捉え、人生の各段階の課題を理解し、共感的理解の基礎について把握する。また、子どもの発達について正しく理解し、実際の保育現場でよく見られる子どもの状態やその具体的な対応策について修得する。 【乳幼児、生涯発達、共感的理解】						
実務経験と教授内容	保育所の巡回相談や保健所の発達相談の経験を有する教員が、事例を織り込みながら授業を行う。			アクティブラーニング	該当なし		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP2】専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	子どもの発達について理解し、その対応方法を身につける。						
○ 技能・表現	職場や地域の人々と良好な人間関係を作ることができる。						
△ 技能・表現	子どもや保護者の心に寄り添った保育を実践できる。						
△ 思考・判断	論理的な思考を用いて子どもや子育てを巡る問題に取り組む。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分			
1	保育における発達心理学 エリクソンの人格発達理論について概観する。		8	乳幼児期の心の発達 基本的信頼感と心の発達過程を学習する。			
2	胎児期・乳児期の心理学 胎児と母親の相互作用について学習する。		9	乳幼児期の認知と言葉の発達 乳幼児の理解の仕方と言語の発達を学習する。			
3	乳児期の脳の発達 乳児の能力や、脳の発達について学習する。		10	児童期の心理学・青年期の心理学 心理的課題と心理的危機について学習する。			
4	乳児期の心と身体の発達 乳児の基本的信頼関係について学習する。		11	成人期の心理学 心理的課題と心理的危機について学習する。			
5	幼児期の心の身体の発達 幼児期の心と自我の発達について学習する。		12	虐待について 育児困難からくる虐待について学習する。			
6	幼児期の心と社会性の発達 4つの愛着タイプの特徴について学習する。		13	子育て支援と保護者理解 保護者が抱える問題について学習する。			
7	幼児期の社会的相互作用 親子の関係悪化の様々な要因を学習する。		14	老年期の心理学 認知症、死の受容について学習する。			
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	期末試験	知識・理解	心の基礎や各発達段階の課題について理解しているか				50%
		技能・表現	人間関係の基礎となる乳幼児の心理について理解しているか				30%
課題	技能・表現	乳幼児の心理について理解し、自分の意見を考察できているか				10%	
	思考・判断	積極的に学ぼうとする姿勢が身についているか				10%	
教科書	「手にとるように発達心理学がわかる本」小野寺敦子 著 かんき出版						
参考書	「抱きしめてあげて 育てなおしの子育て」渡辺久子 著 太陽出版						
課題・試験等のフィードバック	次回の授業で、課題の中の特徴的な見解についてコメントする。						
予習・復習の内容と時間	予習として次回の課題部分の教科書を読む。60 分 復習として授業ノートとプリントを見直す、課題としてレポートを作成する。180 分						
免許・資格	幼稚園教諭2種免許状必修科目、保育士資格必修科目、認定ベビーシッター資格必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	授業終了後に教室で質問を受け付ける						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
EPS-5-M-2	保育の心理学Ⅱ	森定美也子	1	演習	保育	後期	必修
授業の概要とキーワード	乳幼児の身体・認知・社会性・言語の各発達段階の課題を理解するため、発達段階の把握の方法を学ぶ。発達障害について、具体的な対応策について修得する。 【乳幼児、発達段階、発達障害】						
実務経験と教授内容	保育所の巡回相談や保健所の発達相談の経験を有する教員が、事例を織り込みながら授業を行う。			アクティブラーニング	グループワーク		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP2】専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	子どもの発達について理解し、その対応方法を身につける。						
○ 技能・表現	子どもや保護者の心に寄り添った保育を実践できる。						
△ 技能・表現	職場や地域の人々と良好な人間関係を作ることができる。						
△ 思考・判断	論理的な思考を用いて子どもや子育てを巡る問題に取り組む。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100分			
1	乳幼児の保育における発達理解 遠城寺式発達検査法の方法について学習する。			8	自閉症の理解とその対応 1 自閉症スペクトラム障害について学習する。		
2	遠城寺式発達検査法について 発達指数の計算方法について学習する。			9	自閉症の理解とその対応 2 自閉症の保育場面での対応について学習する。		
3	乳幼児の身体の発達 「移動運動」「手の運動」について学習する。			10	自閉症の理解とその対応 3 保育場面での関わり方について学習する。		
4	乳幼児の基本的習慣の発達 「基本的習慣」「対人関係」について学習する。			11	ADHDとその対応 1 ADHDの原因や特徴について学習する。		
5	乳幼児の言語の発達 「発語」「言語理解」について学習する。			12	ADHDとその対応 2 対応や保護者が抱える問題を学習する。		
6	遠城寺式発達検査法の実施 学生同士がペアとなって子ども役・保育者役を演じ、検査を実施する。			13	愛着に問題を持つ子どもとその対応 虐待による問題について学習する。		
7	知的障害児の理解とその対応 ダウン症の保育場面での対応を学習する。			14	学習障害（LD）の理解とその対応 学習障害の原因や特徴について学習する。		
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	期末試験	知識・理解	それぞれの発達障害の特徴と対応について理解しているか。				50%
		技能・表現	子どもの発達について理解し、その対応方法を身につけているか。				30%
	課題	技能・表現	遠城寺式発達検査法について理解し、要点を分析して記述できるか。				10%
思考・判断		積極的に学ぼうとする姿勢が身につけているか。				10%	
教科書	「発達障害の基礎知識」 宮尾益知 著 河出書房新社						
参考書	「光とともに… 自閉症児を抱えて」戸部けいこ 著 秋田書店						
課題・試験等のフィードバック	次回の授業で、課題の中の特徴的な見解についてコメントする。						
予習・復習の内容と時間	予習として次回の課題部分の教科書を読む。30分 復習として授業ノートとプリントを見直す、課題としてレポートを作成する。120分						
免許・資格	幼稚園教諭2種免許状必修科目、保育士資格選択必修科目、 認定ベビーシッター資格選択必修科目						
受講要件等	保育の心理学Ⅰを履修していること						
オフィスアワー等	授業終了後に教室で質問を受け付ける						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
PED-5-M-2	子どもの保健	山家宏宣	2	講義	保育	前期	必修
授業の概要とキーワード	教科書と資料を中心に、子どもの心身の健康と発達に関する基本的知識と、実際の保育に係わる子どもの健康状態の把握、疾病とその予防、その他の保健活動との連携について学ぶ。 【乳幼児健診、母子健康手帳、子どもに多い病気、感染症、応急処置】						
実務経験と教授内容	小児科の臨床や乳幼児健診の経験のある医師が、その経験を生かし、子どもの保健や疾病について講義を行う。			アクティブラーニング	該当なし		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP2】専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎	知識・理解	子どもの保健全般について理解し、状況に応じて適切に対処できる					
○	技能・表現	習得した知識を理解し、保育現場で保育指導ができる					
△	知識・理解	問題点を整理し、情報収集や他職種に相談して解決することができる					
△	思考・判断	どのような子どもに愛情をもって接することができる					
回	授業のテーマ及び内容					各回 100 分	
1	子どもの健康と保健と意義と保育の重要性 「ヒトは未熟な状態で生まれてくる」		8	子どもによくみられる感染症			
2	子どもの発育・発達 身体的発育、発達		9	感染症の予防対策、容貌接種の意義			
3	子どもの発育・発達 生理機能の発達		10	生まれつきの病気 アレルギーの病気			
4	子どもの発育・発達 運動機能の発達		11	健康状態の観察と症状から見た対処方法			
5	母子健康手帳と乳幼児健康診査 切れ目のない保健活動		12	子どもの事故とその予防 緊急時の対応と子どもの蘇生			
6	地域の保健活動と子どもの虐待とその防止		13	母子保健の現状と保育の現場での保健の課題			
7	子どもの病気の特徴 子どもに多い病気 総論		14	保育士として、保健活動をする他職種間との連携の重要性			
評価方法と基準	評価方法	領 域	評価の観点				割合
	期 末 試 験	知識・理解	子どもの成長発達、病気とその予防とその方法を理解しているか				50%
		思考・判断	子どもの症状に対し適切な対処方法を選択・判断できるか				10%
	課 題 ・ 小 テ ス ト	技能・表現	基本的な知識を習得しているか				20%
		知識・理解	指示された内容を調べて報告できるか。				10%
平 常 点	知識・理解	積極的に学ぶ姿勢が身についているか				10%	
教 科 書	「保育の中の保健（改訂第2版）」 巷野悟郎・高橋悦二郎編 萌文書林						
参 考 書	特になし						
課題・試験等のフィードバック	課題には講義の中でコメントしていきます。						
予習・復習の内容と時間	予習:次時の学習内容について教科書をよく読み、分からない用語は事前に調べておく。120分 復習:講義の内容を教科書で再確認し復習する習慣をつけてください。120分						
免許・資格	保育士資格必修科目、認定ベビーシッター資格必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	授業終了後に教室で質問を受け付ける。						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
PED-5-M-2	子どもの保健	内海みよ子	2	講義	保育	前期	必修
授業の概要とキーワード	<p>子どもの特徴は成長発達することである。各発達段階の特徴や子どもに多い疾患について学ぶとともに、生活環境、育児環境が子どもの健康に及ぼす影響について学ぶ。</p> <p>【小児保健・発達段階・健康診査・健康障害・健康支援】</p>						
実務経験と教授内容	小児専門病院での看護師勤務経験と小学校教諭の経験を活かし、子どもの健康な成長発達に必要な知識・態度など講義する。			アクティブラーニング	グループワーク		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP2】 専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	子どもの発達段階について理解し、保護者が参画する発達支援について理解できる。						
○ 技能・表現	習得した知識をもとに子どもと保護者に子育てについて指導ができる。						
△ 知識・理解	健康保持・増進のため保育実践の分析と課題を解決することができる。						
△ 思考・判断	子どもの成長・発達の更新にむけて、さらに健康支援に向けての保育を考えることができる。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分			
1	乳幼児の成長発達の特徴を理解する			8	集団保育場面で起こりやすい事故について知り、対策等を考える		
2	乳幼児の発達課題を知り、保育士の役割を理解する			9	子どもに多い病気について知り、対応を理解する		
3	乳幼児への健診の意義を理解する			10	アレルギー性疾患をもつ子どもへの対応を理解する		
4	乳幼児の予防接種などの内容を理解する 法律と制度・施策と子育て支援について知る			11	集団保育時の環境及び衛生管理について理解する		
5	乳幼児期の栄養の必要性について知る			12	子どもの障害について理解し、個々への対応について考える		
6	乳幼児期の睡眠・運動の必要性について知る			13	災害時の対応について過去の事例から考える		
7	子育て支援の現状と保育士の役割を理解する			14	保育士の健康管理について学ぶ		
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	期末試験	知識・理解	子どもの発達段階と親の存在意義・健康な心身の発達への支援を理解しているか				50%
	課題・レポート	技能・表現	子どもの心身の発達支援や問題解決についてレポートを作成できるか				30%
		知識・理解	健康支援に向けての保育を考えられているか				10%
平常点	思考・判断	積極的に学ぼうとする姿勢が身についているか				10%	
教科書	「保育の中の保健（改訂第2版）」 巷野悟郎・高橋悦二郎編 萌文書林						
参考書	特になし						
課題・試験等のフィードバック	課題は次回の授業で返却するとともに、特徴的な見解や誤答についてコメントする。						
予習・復習の内容と時間	予習: 指定した教科書のページを事前に読んでおくこと。120 分 復習: 本時の授業内容を振り返る。120 分						
免許・資格	保育士資格必修科目、認定ベビーシッター資格必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	授業終了後に教室で質問を受け付ける。						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
EDC-5-M-1	音楽表現の基礎	田原淑子	1	演習	保育	前期	選択
授業の概要とキーワード	保育者として現場で子ども達が歌う、楽器演奏す音楽の表現活動を支えるために必要な音楽の基礎知識を身につける。歌うこと、聴くこと、ピアノを弾くこと、体を動かして感じることをとおして音楽表現の基礎力を養う。【音楽理論、歌唱表現、和音伴奏】						
実務経験と教授内容	該当なし			アクティブラーニング	グループワーク		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP2】 専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	保育現場に必要な音楽教材の内容を理解するための音楽の基礎知識を身につける。						
○ 技能・表現	基礎的な音楽理論を理解し、表現技術に反映することができる。						
△ 知識・理解	子どもの音楽表現に対して興味・関心を持つことができる。						
△ 態度・志向	積極的な授業参加と意欲的に学修する態度が身についている。						
回	授業のテーマ及び内容	各回 100 分					
1	オリエンテーション 楽譜のしくみについて ピアノの鍵盤位置と大譜表の音符の関係を確認する	8	調号の復習および5度圏について理解する 移調・転調について理解する				
2	音名(日本語・ドイツ語・英語)を理解する	9	各調の主要三和音について理解する 発想標語について理解する				
3	音符と休符の長さを理解し正しい書き方を学ぶ	10	コードネームの基礎を理解する 奏法を表す記号について理解する				
4	拍子とリズムについて歌う、指揮をする、リズム打ちをするなど体で感じて理解する	11	主要三和音とコードネームの関係を理解する				
5	幹音の音程について理解する 速度に関する標語を理解する	12	簡単な伴奏付けを実践する				
6	派生音の音程について理解する 強弱に関する標語を理解する	13	色々な伴奏の形やアレンジを考える				
7	音階と調のしくみを理解する	14	まとめ 表現へのつながり				
評価方法と基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	期 末 試 験	知識・理解	保育教材の内容を理解するにあたり基本的な音楽理論が身についているか				50%
		技能・表現	学習内容を理論に基づいて展開することができるか				20%
	課 題	技能・表現	学習内容を理論に基づいて展開することができるか				10%
	平 常 点	態度・志向	積極的な授業参加の姿勢が身についているか				10%
	小 テ ス ト	知識・理解	標語等の基礎的知識が身についているか				10%
教 科 書	「子どものための音楽表現技術」 今泉明美・有村さやか編著 萌文書林						
参 考 書	「おんがくのしくみ」 今川恭子ほか編 教育芸術社						
課題・試験等のフィードバック	小テストは解答を次回提示し、正答に書き直させる。期末試験の評価が振るわない学生に対して勉強会を開く。						
予習・復習の内容と時間	予習:教科書の次回の授業内容部分に目を通しておく。15分 復習:教科書やノートの見直し、練習問題の宿題を解くことで理解を確実にする。45分						
免許・資格	保育士資格選択必修科目、認定ベビーシッター資格選択必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	授業終了時、その他休憩時間(研究日以外)研究室						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
EDC-5-M-2	ピアノ I	田原淑子 他	2	演習	保育	通年 (前期)	必修
授業の概要と キーワード	<p>前期…個人の技能レベルに即して、ピアノ課題曲(9段階のグレード設定)を学習することで基礎となる技術力を養いながら、簡単な生活の歌を弾き歌い出来るようにする。 後期…弾き歌い曲を出来るだけ多く学習し現場での即戦力を養う。 授業は基本的に個人レッスン形式(適宜ML教室で練習)。自己の学習記録(レッスンノート)をチェックし次回への練習計画を指導する。【ピアノ基礎技能、弾き歌い、継続的練習】</p>						
実務経験と 教授内容	該当なし			アクティブラーニング	事前学習型授業		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP2】 専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎	知識・理解	ピアノ曲や弾き歌い曲の音楽の内容や奏法について理解し、演奏することができる。					
○	技能・表現	基礎的な技能を習得するとともに、生活の歌 5 曲・弾き歌い課題曲 15 曲以上を合格する。					
△	態度・志向	積極的な授業参加と計画的な練習を行うことができる。					
△	知識・理解	子どもの心身の発達を理解し、寄り添った音楽活動の大切さを理解できる。					
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分			
1	オリエンテーション 入学前レッスンで提示している曲を演奏する			8	各個人のレベルに合ったグレード課題曲のレッスン ・生活の歌・・・おかたづけ		
2	各担当教員グループ別に分かれ個人レッスン ピアノグレードを決める			9	各個人のレベルに合ったグレード課題曲のレッスン ・生活の歌・・・おべんとう		
3	各個人のレベルに合ったグレード課題曲のレッスン ・拍子を理解して演奏する			10	各個人のレベルに合ったグレード課題曲のレッスン ・生活の歌・・・おはようのうた		
4	各個人のレベルに合ったグレード課題曲のレッスン ・リズムを正しく演奏する			11	各個人のレベルに合ったグレード課題曲のレッスン ・生活の歌・・・歯を磨きましょう		
5	各個人のレベルに合ったグレード課題曲のレッスン ・適切な指使いで演奏する			12	各個人のレベルに合ったグレード課題曲のレッスン ・生活の歌・・・おかえりのうた・その他		
6	各個人のレベルに合ったグレード課題曲のレッスン ・各曲の調を理解して演奏する			13	ピアノ実技確認テスト		
7	各個人のレベルに合ったグレード課題曲のレッスン ・スタッカートとレガートの奏法に注目して演奏する			14	まとめ・確認テストのふりかえり 後期課題への導入		

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
EDC-5-M-2	ピアノ I	田原淑子 他	2	演習	保育	通年 (後期)	必修
回	授 業 の テ ー マ 及 び 内 容	各回 100 分					
15	個人レッスン 夏休みの課題曲	22	個人レッスン 弾き歌い曲:音楽用語と各曲の調を確認する				
16	個人レッスン 弾き歌い曲:教科書伴奏譜とアレンジ譜の比較	23	個人レッスン 弾き歌い曲:明瞭な発音で歌う				
17	個人レッスン 弾き歌い曲:秋の曲	24	個人レッスン 弾き歌い曲:正しいリズムで演奏する				
18	個人レッスン 弾き歌い曲:冬の曲	25	個人レッスン 弾き歌い曲:曲想を意識した伴奏法を考える				
19	個人レッスン 弾き歌い曲:春の曲	26	個人レッスン 弾き歌い曲:歌とピアノ伴奏のバランスを考える				
20	個人レッスン 弾き歌い曲:夏の曲	27	個人レッスン 弾き歌い曲:弾き歌い課題表の合格確認 試験エントリー曲数と選曲番号の提出				
21	個人レッスン 弾き歌い曲:教育実習に向けて	28	グループレッスン 弾き歌い試験課題曲の総復習				
評価方法と基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	期 末 試 験	知識・理解	音楽的知識や弾き歌い曲の内容を理解し演奏に反映できているか				40%
		技能・表現	保育現場で実践できる表現が身につけられているか				15%
		知識・理解	子どもに寄り添った音楽活動することを理解しているか				10%
小 テ ス ト	知識・理解	基礎的音楽知識を理解しピアノ演奏に繋がっているか				10%	
	技能・表現	ピアノの基礎的な表現技術が身についているか				15%	
平 常 点	態度・志向	授業態度・レッスンノートのまとめ等積極的な学びへの努力がみられるか				10%	
教 科 書	*バイエル教則本 *ブルグミュラー:25の練習曲 *ソナチネ第1・2巻 *各ソナタアルバム *カバレフスキー:こどものための小曲集 *バッハ:アンナマグダレーナのために・インベンションとシンフォニア *幼児の四季:春夏・秋冬 *その他プリント						
参 考 書	新音楽辞典(編集:浅香 淳) 音楽之友社						
課題・試験等のフィードバック	ピアノグレード表・弾き歌い課題表において合格曲には日付けと印を担当教員が記入し進度が明確にわかるようにしている。レッスンノートは毎回提出し担当教員がチェックコメントをする。試験後は必要に応じて呼び出し、今後の練習計画等を指導する。						
予習・復習の内容と時間	次回授業に向けて予習・復習練習は必須の科目です。演習科目の自宅学習時間の標準は週に1時間程度ですが、ピアノに関しては毎日最低30分以上の練習を継続することをお勧めします。						
免許・資格	幼稚園教諭2種免許状必修科目						
受講要件等	毎回のレッスン時に受けた指導内容と感想を書いたレッスンノートを作り日々の練習に活かすこと。欠席した場合は学内で1週間以内に1時間の自主補充練習をし、日付け・時間・練習曲目等を記入した補充練習カードを提出し報告すること。						
オフィスアワー等	非常勤講師については出校日の授業後。 専任については出来る限り対応しますが、時間をとる場合はできれば事前に予約してください。						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
EDC-5-M-2	音楽指導論	田原淑子	1	演習	保育	後期	選択
授業の概要とキーワード	保育現場で使用する様々な曲の教材について解説し、内容を深く理解するとともに適切な表現方法と指導のポイントを探る。手あそび・指あそびを出来るだけ多く習得し現場での指導に役立たせる。 【弾き歌い曲、手あそびうた、園行事、季節感、教材研究】						
実務経験と教授内容	該当なし			アクティブラーニング	グループワーク		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP2】専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	保育現場における音楽表現の意義と内容を理解する。						
○ 技能・表現	表情豊かに楽しく指導する能力を身につける。						
△ 態度・志向	積極的な学習態度を身につける。						
△ 知識・理解	子どもの表現活動に興味を持つことができる。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分			
1	オリエンテーション 園生活と音楽について・手あそびうた(生活)			8	春の教材研究(弾き歌い曲)		
2	秋の教材研究(弾き歌い曲)			9	春の園行事や記念日と音楽について 手あそびうた(ゲーム・ジャンケン)・・・グループ実演		
3	秋の園行事や記念日と音楽について 手あそびうた(低年齢児)・・・グループ実演			10	クリスマス特別教材		
4	夏の教材研究(弾き歌い曲)			11	季節を問わず使用する曲の教材研究(弾き歌い曲)		
5	夏の園行事や記念日と音楽について 手あそびうた(食べ物)・・・グループ実演			12	言葉のリズム遊びとボディパーカッション リズム譜づくり		
6	冬の教材研究(弾き歌い曲)			13	季節や行事に適した音楽教材のまとめ 手あそびうたの復習		
7	冬の園行事や記念日と音楽について 手あそびうた(動物)・・・グループ実演			14	手あそびうたの実演発表		
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	期末試験	知識・理解	授業中に解説した表現やその方法について理解しているか				50%
	小テスト	技能・表現	手あそびうたの実演を楽しく表情豊かに表現できているか				30%
		知識・理解	子どもの表現活動を想定できているか				10%
平常点	態度・思考	積極的な授業参加や課題提出ができているか。				10%	
教科書	「手あそび百科」植田光子著 ひかりのくに株式会社、「最新版 年齢別 行事ことばかけハンドブック」世界文化社、「幼児の四季」早川史郎著 株式会社エー・ティー・エヌ、賛美の歌						
参考書	「子どものための音楽表現技術」今泉明美他編著 萌文書林						
課題・試験等のフィードバック	毎回、前回の内容を復習する。 手あそびの実演についてお互いにコメントを出し合うことやディスカッションをする。						
予習・復習の内容と時間	予習:教科書を見て手あそびうたなど練習する。30分 復習:授業内容を振り返り、必要に応じてノートをまとめる。30分						
免許・資格	保育士資格選択必修科目、認定ベビーシッター資格選択必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	研究日以外の放課後、休憩時間に研究室へ直接。時間がかかる内容の時は事前予約。						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
EDC-5-M-2	図画工作	井澤正憲	2	演習	保育	通年 (前期)	必修
授業の概要と キーワード	素描、水彩、彫塑、版画など、美術や図画工作の基本的な表現を学ぶとともに、作品の展示、鑑賞について実践を通して学習する。また、和歌山の美術についても触れる。【造形、表現、鑑賞】						
実務経験と 教授内容	該当なし			アクティブラーニング	実 技		
				地域の学修	○		
関連する DP	【DP2】専門的知識・理解						
学修成果の領域	学 生 の 到 達 目 標						
◎ 知識・理解	造形的な表現の方法や手段、道具の扱いについて理解する。						
○ 技能・表現	多様な表現力を身に付け、表現する技術と能力を身に付ける。						
△ 知識・理解	創作や制作のプロセスの中で、素材感・質感の発見と表現方法を身に付ける。						
△ 態度・志向	感性に基づく表現を理解し、生涯学び続ける態度を身に付けることができる。						
回	授 業 の テ ー マ 及 び 内 容	各回 100 分					
1	オリエンテーション1 ・授業の展開と絵を描くことについて ・表現することと、見ることについて	8	色彩② 色鉛筆による表現 応用的表現				
2	素描① 鉛筆による表現	9	色彩③ クレヨンによる表現 基礎的表現				
3	素描② 木炭による表現	10	色彩④ クレヨンによる表現 応用的表現				
4	素描③ 墨による表現	11	色彩⑤ 水彩絵具による表現 基礎的表現				
5	素描における課題制作①	12	色彩⑥ 水彩絵具による表現 応用的表現				
6	素描における課題制作② 作品の合評	13	色彩における課題制作①				
7	色彩① 色鉛筆による表現 基礎的表現	14	色彩における課題制作② 作品の合評				

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
EDC-5-M-2	図画工作	井澤正憲	2	演習	保育	通年 (後期)	必修
回	授業のテーマ及び内容		各回 100分				
15	オリエンテーション2 ・授業の展開とものをつくることについて ・表現することと、見ることについての復習	22	版画① 木版による表現 彫り				
16	彫塑① 紙粘土による表現 工作	23	版画② 木版による表現 刷り				
17	彫塑③ 紙粘土による表現 着彩	24	版画③ 応用的な版画表現				
18	立体工作① 紙や木、廃材等による表現 基礎的表現	25	グループ制作① 共同作品の作成 プランニング				
19	立体工作② 紙や木、廃材等による表現 応用的表現	26	グループ制作② 共同作品の作成 制作				
20	立体工作③ 紙や木、廃材等による表現 作品の完成	27	グループ制作③ 共同作品の作成 作品の完成と展示				
21	彫塑、立体工作による作品の合評	28	版画、グループ作成による作品の合評 1年間のまとめと振り返り 美術と保育との関わり、和歌山の美術について				
評価方法と基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	課 題	知識・理解	造形的な表現方法や手段について理解できているか。				50%
		知識・理解	多様な素材や手法を用いて総合的な表現力が身についているか。				10%
		技能・表現	創造的な思考力が身について表現に活かされているか。				30%
平常点	態度・志向	積極的に表現し、学ぼうとしている姿勢が身についているか。				10%	
教科書	特になし						
参考書	「新造形表現 実技編」花篤 實・岡田愨吾 編著 三晃書房						
課題・試験等のフィードバック	授業のまとめを利用し、製作への発想に活用する。						
予習・復習の内容と時間	各回の授業内容のまとめと感想を配付するプリントに記入し、まとめておく。60分						
免許・資格	幼稚園教諭2種免許状必修科目						
受講要件等	次回に行われる活動内容を把握し、個人で必要な材料・用具があれば準備しておくこと。 汚れても良い服装を準備しておくこと。						
オフィスアワー等	授業日の放課後に研究室にて対応する。その場合事前に伺いを知らせること。						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
EDC-5-M-2	子どもの言葉	大橋眞由美	2	講義	保育	前期	選択
授業の概要とキーワード	子どもの言葉を豊かにする児童文化・児童文化財(絵本・紙芝居など)の概要と実技、子どもの言葉の意義や機能の専門知識、子どもの言葉に関する諸問題について、担当教員が指導し教授する。 【領域「言葉」、児童文化、児童文化財】						
実務経験と教授内容	児童文化に関する博士(人間科学)を有し、図書ボランティア経験のある教員が、実技を指導して専門知識を教授する。			アクティブラーニング	実技		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP2】専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	言葉の意義と機能、言葉に関する諸問題を学ぶことで、知識を習得することができる。						
○ 技術・表現	課題とする実技体験や作品制作から、保育に関する技術と表現を磨くことができる。						
△ 思考・判断	課題とするレポートに取り組むことで、子どもの言葉に対する思考を深めることができる。						
△ 態度・志向	積極的に学ぶことで、保育者としての態度を修得することができる。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100分			
1	オリエンテーション 領域「言葉」とは		8	言葉の意義と機能(1) 子どもの発達と言葉			
2	保育に於ける児童文化財(1) 子どもと絵本		9	言葉の意義と機能(2) 前言語期のコミュニケーションと保育			
3	保育に於ける児童文化財(2) 様々な絵本		10	言葉の意義と機能(3) 話し言葉の機能と発達			
4	保育に於ける児童文化財(3) 紙芝居の構造、演じ方		11	言葉の意義と機能(4) 書き言葉の発達と保育			
5	保育に於ける児童文化財(4) 紙芝居を演じる		12	言葉の意義と機能(5) 言葉の発達と児童文化財・言葉遊び			
6	保育に於ける児童文化財(5) 子どもの視点で紙芝居を楽しむ		13	言葉に関する諸問題(1) 言葉に関して配慮を必要とする子どもへの支援			
7	保育に於ける児童文化財(6) ペープサートを作る		14	言葉に関する諸問題(2) 現代社会と言葉			
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	期末試験	知識・理解	言葉の意義と機能の知識を習得できているか。 言葉に関する諸問題を理解できているか。				40% 20%
	課題	技術・表現 思考・判断	実技体験と作品制作に積極的に取り組んでいるか。 小レポートに於いて、課題に対する思考や判断を深めようとしているか。				20% 10%
	平常点	態度・志向	積極的に学ぼうとする姿勢が身についているか。				10%
教科書	馬見塚昭久ほか編著『保育内容「言葉」指導法』ミネルヴァ書房						
参考書	『新版 児童文化』 皆川美恵子ほか編著 ななみ書房 『ペープサート大百科』 阿部恵著 ひかりのくに						
課題・試験等のフィードバック	毎授業時に行う絵本「読み聞かせ」の実技体験に於いて、担当者に対して改善点などの助言をする。授業時に提出の課題レポートから、優れたものを次回授業で紹介する。						
予習・復習の内容と時間	次回に学ぶ教科書の内容を事前に読むこと(60分)。子どもの様子を観察し、積極的に関与すること(90分)。図書室や図書館などで絵本・紙芝居に親しむこと(90分)。(合計=週4時間程度)						
免許・資格	保育士資格選択必修科目、認定ベビーシッター資格選択必須科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	授業終了後に教室で質問を受け付ける。						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
EDC-5-M-1	子どもの表現	井澤正憲 今西香寿 種田葉子	1	演習	保育	前期	選択
授業の概要とキーワード	音楽・身体・造形的な観点から、さまざまな素材や道具を使って表現するための方法と、保育者にふさわしい表現力とは何かを、実践的な活動を通して学習する。 『オムニバス方式』【表現力、音楽、身体、造形】						
実務経験と教授内容	該当なし			アクティブラーニング	実技		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP2】 専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	音楽・身体・造形的な表現の方法と手段を身につける						
○ 技能・表現	多様な表現力と、子どもの自主性を尊重した活動を計画することができるようになる						
△ 知識・理解	子どもが考えたことや感じたことを自分なりに表現できる環境を理解する						
△ 技能・表現	様々な表現を用いて自分の意見を相手に伝える力を身につける						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分			
1	「表現する」とは何か① 授業の概要、計画、目標と評価方法について (井澤・今西・種田)			8	造形の表現方法3 実践:仮面を作る②着色・装飾 (井澤)		
2	音楽と身体の表現の方法 リトミック1 道具を使って音楽に合わせて体を動かす(種田)			9	造形の表現方法4 実践:仮面で遊ぼう(井澤)		
3	音楽と身体の表現方法 リトミック2 アイスブレーキングと仲間づくり(種田)			10	感じたことを体で表現してみよう(今西)		
4	音楽と身体の表現方法 リトミック3 音楽に合わせて体を動かす(種田)			11	幼児向けダンスを調べてみよう(今西)		
5	音楽の表現方法 合奏 わらべうたでリトミック(種田)			12	幼児向けダンスの練習(今西)		
6	造形の表現方法1 準備:仮面の造形(井澤)			13	幼児向けダンス発表(今西)		
7	造形の表現方法2 実践:仮面を作る①(井澤)			14	子どもの表現のまとめ 表現と保育内容との関わりと今後の課題について (井澤・今西・種田)		
評価方法と基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	課 題	知識・理解	本時の表現の方法と手段を身につけることができ、ノートを作成することができるか				50%
		技能・表現	表現活動を計画することができるか				30%
	平 常 点	知識・理解	子どもが考えたことや感じたことを読み取る力が身につけているか				10%
知識・理解		様々な表現方法を用いて自分の意見を相手に伝える力が身につけているか				10%	
教科書	授業中に適宜資料を配付する						
参考書	「楽しみながらからだを動かす1～5歳のかんたんリトミック」 ナツメ社						
課題・試験等のフィードバック	授業時間内の課題は、授業の中で解答を検討する						
予習・復習の内容と時間	授業内容を振り返るためにノートを作成する。 60 分						
免許・資格	保育士資格選択必修科目、認定ベビーシッター資格選択必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	授業終了後に教室で質問を受けつける						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
PED-5-M-2	子どもの健康と安全	内海みよ子	1	演習	保育	後期	選択
授業の概要とキーワード	保育現場において子ども一人ひとりの心身の状態や発達の過程を踏まえ、さらに集団全体の健康と安全を考慮した適切な対応ができる理論と技術について修得する。演習を取り入れた講義をおこなう。【発達過程・保健指導・応急処置】						
実務経験と教授内容	小児専門病院での看護師勤務経験と小学校教諭の経験を活かし、子どもの健康な成長発達に必要な知識・態度など講義する。			アクティブラーニング	実技		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP2】 専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	子どもの心身の発達過程を理解し、評価し適切に対応できる。						
○ 知識・理解	子どもの心身の発達の評価に基づき、保健指導ができる。						
△ 知識・理解	子どもの心身の発達を評価でき、問題の明確化を図り問題解決ができる。						
△ 態度・志向	子どもの人格形成時期に対応することを自覚する。						
回	授業のテーマ及び内容	各回 100 分					
1	イントロダクション(シラバス持参) 保育における保健活動、保健計画の作成と活用	8	養護技術の演習2 -沐浴-				
2	保健活動記録と自己評価、子ども保健の個別対応	9	感染症の予防と対策				
3	子ども集団全体の健康と安全・衛生管理	10	個別的な配慮を必要とする子どもの対応				
4	養護と教育の一体性、子どもの保健と保育環境	11	事故防止および健康管理・安全管理への組織的取組、けがや急な病気への対応の基本				
5	子どもの生活習慣と心身の健康	12	子どもに起きやすい事故の応急処置				
6	子どもの発達援助と保健活動	13	子どもに起こりやすい症状とケア 災害への備えと危機管理				
7	養護技術の演習1 -衣類の着脱、おむつ交換、抱き方、授乳等-	14	心とからだの健康問題と地域保健活動				
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	期末試験	知識・理解	子どもの心身の発達過程を理解し発達評価・発達支援ができるか				60%
	課題	知識・理解	子どもの心身の発達支援や問題解決についてレポートを作成できるか				20%
	平常点	態度・志向 知識・理解	積極的に学ぼうとする姿勢が身についているか 技術演習時の事前・事後学習において、自己評価と課題を明らかにできているか				10% 10%
教科書	「子どもの保健Ⅱ」 佐藤益子・中根淳子編著 ななみ書房						
参考書	「子どもの保健Ⅱ 演習」 白野幸子著 医歯薬出版						
課題・試験等のフィードバック	課題は次回の授業で返却するとともに、特徴的な見解や誤答についてコメントする。						
予習・復習の内容と時間	予習: 指定した教科書のページを事前に読んでおくこと。60 分 復習: 本時の授業内容を振り返る。30 分						
免許・資格	保育士資格必修科目、認定ベビーシッター資格必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	授業終了後に教室で質問を受け付ける						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
EDC-5-M-1	乳児保育 I	小笠原眞弓	2	講義	保育	後期	選択
授業の概要とキーワード	乳児期は人間の基礎を培う大切な時期であることを理解し、保育に携わる保育者の知識、技術を高め、乳児保育の基本および重要性と役割を理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。 【3歳未満児、養護と教育、保育所保育指針】						
実務経験と教授内容	該当なし			アクティブラーニング	グループワーク		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP2】 専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎	知識・理解	乳児保育の意義と目的、役割を理解する。					
○	知識・理解	乳児保育の現状と課題を理解し、適切な対応ができる。					
△	知識・理解	乳児の発育を踏まえ、愛情豊かな対応ができる。					
△	技能・表現	保育者の役割、専門性を理解する。					
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分			
1	オリエンテーション 乳児保育の意義と目的、歴史的変遷			8	さまざまな施設と乳児の保育		
2	「保育所保育指針」からみる乳児保育の役割			9	乳児の保育形態と配慮		
3	乳児保育の現状と課題			10	乳児の生活と環境構成		
4	3歳未満児の発達と保育(0歳児)			11	乳児の遊びと保育者の関わり 乳児のための手づくり玩具		
5	" (1歳児)			12	3歳以上児の保育とのつながり		
6	" (2歳児)			13	乳児保育における指導計画・記録・評価		
7	乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援			14	乳児保育における連携・協働 まとめ		
評価方法と基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	期 末 試 験	知識・理解	乳児保育の要点と基礎知識を理解しているか				50%
		知識・理解	乳児保育の課題に対して適切な判断、対応ができるか				30%
		知識・理解	乳児の特性を理解しているか				10%
課 題	技能・表現	学修内容が理解でき、表現することができるか				10%	
教科書	「乳児保育」馬場耕一郎編著 ミネルヴァ書房						
参考書	「保育所保育指針」フレーベル館						
課題・試験等のフィードバック	課題については次回の授業でコメントを伝える。						
予習・復習の内容と時間	予習:教科書の次回授業範囲を読み、わからない語句を調べておく。 120 分 復習:授業内容を振り返り、ノートをまとめておく。 120 分						
免許・資格	保育士資格必修科目、認定ベビーシッター資格必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	昼休憩および放課後、研究室へ直接						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
EDM-5-M-2	教育の方法と技術	西川厚子	1	演習	保育	後期	選択
授業の概要とキーワード	<p>これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育むために、保育者として必要な教育方法・技術、情報機器を活用した効果的な保育や教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。受講者が主体的に考え、話し合い、まとめ、発表することを中心とした能動的な授業を行う。</p> <p>【保育内容の指導方法と保育の構想、評価、情報機器及び教材の活用】</p>						
実務経験と教授内容	小学校及び教育委員会での勤務経験を持つ者が、保育者としての基礎的な教育方法及び技術習得のための授業を行う。			アクティブラーニング	グループワーク		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP3】専門的技能						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 技能・表現	子どもたちに求められる資質や能力を育成するために必要な指導技術を身に付ける						
○ 技能・表現	情報通信機器を用いて、保育教材や保育記録を作成することができる						
△ 思考・判断	子ども理解に基づき、発達段階を踏まえながら指導案を考えることができる						
△ 知識・理解	子どもたちに求められる資質や能力を育成するために必要な教育方法を理解する						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100分			
1	教育方法・技術論を学ぶ目的と学びのロードマップ			8	保育の基礎的表現技術①—話し方—		
2	子どもの成長を支える「主体的・対話的で深い学び」			9	保育の基礎的表現技術②—環境構成・教材提示の工夫—		
3	「主体的・対話的で深い学び」を実現するための保育・教育方法			10	学習指導案作成のための基礎的理論		
4	保育・教育の本質とその構成要件			11	学習指導案作成—子ども理解に基づく指導案づくり—		
5	すべての子どもを伸ばすユニバーサルデザインの保育			12	興味・関心を高めるための情報機器を用いた教材の工夫		
6	幼児理解に基づいた保育の評価の基礎的理論			13	情報機器等を用いた実践のプレゼンテーション		
7	保育の評価方法			14	これからの保育を提案する—わたしの理想の保育—		
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	期末試験	技能・表現	子どもたちに求められる資質や能力を育成するために必要な指導技術を身に付けているか				40%
		知識・理解	子どもたちに求められる資質や能力を育成するために必要な教育方法について理解しているか				10%
	課題	思考・判断	子ども理解に基づき、発達段階を踏まえながら指導案を考えることができるか(レポート及びグループワーク)				10%
平常点	技能・表現	子どもたちに求められる資質や能力を育成するために必要な指導技術について集団で考え、まとめたものを表現できるか。(グループワーク)				20%	
		情報通信機器を用いて、保育教材や保育記録を作成することができるか				20%	
教科書	「新しい保育・幼児教育方法」広岡義之(編著) ミネルヴァ書房						
参考書	幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園保育・教育要領解説・保育所保育指針解説書						
課題・試験等のフィードバック	理解度確認テストを回収後、解答の解説を行う。レポートやグループワークでの意見に対し受講者の自己肯定感を高める評価を行う。						
予習・復習の内容と時間	事前に示される課題について教科書、参考書、新聞などを読み、自分なりの考えや疑問などを持って授業に臨むこと。60分						
免許・資格	幼稚園教諭2種免許状必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	授業終了後に教室で質問を受け付ける						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
EEC-5-M-2	教育課程論	渡辺直人	2	講義	保育	後期	選択
授業の概要とキーワード	教育課程の現代の課題から歴史的な変遷、和歌山における教育課程まで包括的に講義する。教育課程の基礎的理論や機能、学習指導要領・幼稚園教育要領の性格・位置付けを理解し、教育課程編成の目的を学ぶ。【教育課程、教育改革、学習指導要領の変遷】						
実務経験と教授内容	特になし			アクティブラーニング	グループワーク		
				地域の学修	○		
関連する DP	【DP3】専門的技能						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 技能・表現	よりよい教育課程とはどのようなものか分析する能力が身についている						
○ 知識・理解	教育課程編成に関する基礎的な知識を習得する						
△ 思考・判断	教育課程の現代的課題に関して考察することができる						
△ 態度・志向	教育課程編成について意欲的に考える姿勢が身についている						
回	授業のテーマ及び内容	各回 100 分					
1	オリエンテーション	8	近代のカリキュラム改革の動向 ー環境教育や国際理解などー				
2	教育課程とは何か ー教育課程の編成主体、現代の教育課程改革に関してー	9	教育課程の歴史に関して ー戦前に関する教育課程ー				
3	内容選択の基準に関して ーカリキュラム編成において何を重視するかー	10	教育課程の歴史に関して ー現代の教育課程ー				
4	カリキュラム編成の原理に関して ースコープ・シークエンス、カリキュラムの類系等ー	11	学習指導要領の変遷 ーこれまでの学習指導要領の流れー				
5	カリキュラムを社会的な視点から ーカリキュラムにまつわる緒論と教育課程における課題ー	12	海外先進各国の教育課程 ー幼稚園から大学まで流れー				
6	教育環境に関してー物的環境から空間的環境までー	13	カリキュラム・マネジメントと作成の実際				
7	カリキュラムと評価の考え方 ー学力・授業・学校評価に関してー	14	まとめと総括				
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	期末試験	技能・表現	よりよい教育課程とはどのようなものか分析する能力が身についている				50%
		知識・理解	教育課程編成に関する基礎的な知識を理解できているか				30%
	課題	思考・判断	教育課程の現代的課題に関して考察することができるか				10%
平常点	態度・志向	教育課程編成について意欲的に考える姿勢が身についているか				10%	
教科書	「よくわかる教育課程(第2版)」田中耕治(編) ミネルヴァ書房						
参考書	「保育所保育指針解説」厚生労働省(編) フレーベル館 「幼稚園教育要領解説」文部科学省(編) フレーベル館						
課題・試験等のフィードバック	課題や小テスト等の提出物の返却の際はコメントも添付する。また、模範的な回答も都度提示する。						
予習・復習の内容と時間	予習: 授業後に時間の予告をし、あらかじめ教科書を熟読しておくこと。120分 復習: 講義内容を再確認すること。120分						
免許・資格	幼稚園教諭2種免許状必修科目、保育士資格必修科目、認定ベビーシッター資格必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	昼食休憩時						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
EEC-5-M-2	保育内容総論	渡辺直人	1	演習	保育	後期	選択
授業の概要とキーワード	保育内容の5領域のみならず、歴史、保育者の役割、海外の保育など保育に関する総じた知識の修得を目指す。幼児教育に関する基礎理論および実践例や和歌山の保育の特徴まで包括的に学ぶ。実施形態に関しては話し合い活動やグループ活動を通して能動的な学習を多く取り入れて進めていく。【幼稚園教育の基本、保育者の役割、指導計画、子ども理解】						
実務経験と教授内容	特になし			アクティブラーニング	グループワーク		
				地域の学修	○		
関連する DP	【DP3】専門的技能						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 技能・表現	保育内容それぞれに関する具体的活動を考案する力が身についている						
○ 知識・理解	保育内容に関する基礎的な知識を習得する						
△ 知識・理解	子どもを理解するための発達課題や基礎的知識を習得する						
△ 態度・志向	保育の活動に関して意欲的に考える姿勢が身についている						
回	授業のテーマ及び内容	各回 100分					
1	オリエンテーション	8	生活と保育内容 ー食事や排泄の重要性ー				
2	保育内容の歴史の変遷に関して ー倉橋惣三や『保育要領』(1948)に関してー	9	環境と保育内容 ー人的・物的環境、屋内や屋外における活動に関してー				
3	保育内容の歴史の変遷に関して II ー戦後の幼稚園教育要領に関してー	10	発達と保育内容 ー各発達段階の特徴や育ちにおける保育者の理解に関してー				
4	保育内容 5 領域各概論 ー健康・人間関係・環境・言葉・表現の要点ー	11	子どもと保育者の関係 ー保育者にはどのような役割があるかー				
5	子ども理解に関して ー生活、遊び、状況、時期、様々に絡むものを通してー	12	海外における保育 ー先進諸外国の実際ー				
6	遊びの緒論(1)ー遊びの理論や遊びから得られるものの総合的考察ー	13	障害児保育 ー特別な支援を要する子どもたちにつまむ緒論ー				
7	遊びの諸論(2)ー遊びから何が得られるか グループ活動を通した能動的学習ー	14	まとめと総括				
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	期末試験	技能・表現	保育内容それぞれに関する具体的活動を考案する力が身についているか				50%
		知識・理解	保育内容に関する基礎的な知識を習得しているか				30%
	課題	知識・理解	子どもを理解するための発達課題や基礎的知識を習得しているか				10%
平常点	態度・志向	保育の活動に関して意欲的に考える姿勢が身についているか				10%	
教科書	「新訂 演習 保育内容総論」金澤妙子 前田和代 編著 建帛社						
参考書	「保育所保育指針解説」厚生労働省(編) フレーベル館 「幼稚園教育要領解説」文部科学省(編) フレーベル館						
課題・試験等のフィードバック	提出物の返却時にはコメントを添付し、さらに不明な点があれば受け付ける旨を示す						
予習・復習の内容と時間	予習:授業後に次時の予告をし、あらかじめ教科書を熟読しておくこと。30分 復習:講義内容を再確認すること。30分						
免許・資格	幼稚園教諭2種免許状必修科目、保育士資格必修科目、認定ベビーシッター資格必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	昼食休憩時						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
EDM-5-M-2	保育内容演習(健康)	今西香寿	1	演習	保育	後期	選択
授業の概要とキーワード	乳幼児期における身体の特徴や健康的な生活など、発育発達の基礎的理解とともに、保育者として子どもにとっての心身の健康とは、どのような状態であるか理解する。また、保育現場での安全指導や幼児期の健康を助長するかかわりについて学ぶ。指導案を作成し、分かりやすく指導し、将来の保育に活用できる能力を身につける。【発育発達、乳幼児における心身の健康、保育者の役割】						
実務経験と教授内容	幼稚園や地域での体育指導講師の経験を活かし、現場の実践例を折り込みながら授業を行う。			アクティブラーニング	模擬授業		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP3】専門的技能						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 技能・表現	子どもの発育発達について理解し、子どもの姿に応じた対応ができる力を身につける。発育発達に応じた指導案を作成し、指導案をもとに保育をすることができるようになる。						
○ 知識・理解	子ども一人ひとりの発育段階に応じた保育をすることができるようになる。						
△ 知識・理解	子どもの体の特徴や発育発達について理解する。						
△ 技能・表現	習得して得た知識を伝える力を身につけ、模擬保育をすることができるようになる。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分			
1	健康な子ども、元気な子どもの姿とは「健康で安全な生活」について理解する。			8	子どもの運動遊び-運動遊びの重要性について		
2	発育と発達-子どもの身体的・姿勢・運動系・神経系などの発達について			9	運動遊びの実践-子どもの発達に必要な遊び		
3	子どもを取り巻く環境の現状と健康課題-子どもの生活と遊びの現状について			10	運動遊びの計画と評価-あそびのねらいを明確にし、子どもの発育発達を理解した上でのあそびを考察する。		
4	保育における領域「健康」①-幼児期に育みたい資質・能力			11	模擬保育の実施-前回の授業で作成した指導案を基に模擬保育を行う。		
5	保育における領域「健康」②-幼児期の終わりまでに育ってほしい姿			12	模擬保育の実施(振り返り)-前回の授業で行った模擬保育を反省し、模擬保育を振り返る。		
6	子どもの健康と生活習慣-基本的生活習慣の自立の重要性			13	安全の指導-幼児の怪我や事故の実態・幼児に対する安全指導について		
7	食育と栄養-食育の基本と実践について			14	保育者の役割-子どもの健康な心と身体を育てるために必要な保育者の役割を理解する。		
評価方法と基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	期 末 試 験	技能・表現	子どもの発育発達について理解しているか				60%
	平 常 点	知識・理解	子ども一人ひとりの発育に応じた保育をすることができるか				20%
		知識・理解	習得したことを積極的に伝えようとしているか				10%
課 題	技能・表現	対象年齢にあった指導案を作成し、模擬保育を進めることができるか				10%	
教科書	「保育者をめざすあなたへ 子どもと健康第2版」勝木洋子ほか著 株式会社みらい						
参考書	特になし						
課題・試験等のフィードバック	次回の授業で前回の授業での課題を回答する。						
予習・復習の内容と時間	本時の授業ノートを見直す。60分						
免許・資格	幼稚園教諭2種免許状必修科目、保育士資格必修科目、認定ベビーシッター資格必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	水曜日 昼休み						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
EDM-5-M-2	保育内容演習(環境)	高橋多美子	1	演習	保育	前期	選択
授業の概要とキーワード	子どもの発達を幼稚園教育要領および保育所保育指針にある領域「環境」の観点から捉え、子どもの理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。講義やグループ討議、保育実践を通じて子どもと環境とのかかわり、保育のポイントなどを理解していく。【環境、自然、身近な物】						
実務経験と教授内容	該当なし			アクティブラーニング	実 技		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP3】専門的技能						
学修成果の領域	学 生 の 到 達 目 標						
◎ 知識・理解	領域「環境」の観点を理解し、適当な保育内容を構想・展開できる。						
○ 技能・表現	領域「環境」の目的、ねらい、内容を理解している。						
△ 思考・判断	環境を通して育つ子どもの心情・意欲・態度を理解している。						
△ 態度・志向	友達と協力して課題を解決できる。						
回	授 業 の テ ー マ 及 び 内 容			各回 100 分			
1	環境を通じた教育とは 環境を通じた教育と環境の意義を考える			8	砂との関わり 石に関わる力を育む保育内容の理論を学ぶ		
2	領域「環境」とは 領域の考え方と領域「環境」の位置づけを学ぶ			9	砂との関わり 石に関わる力を育む保育内容の実践を学ぶ		
3	幼児期における自然との関わり 幼児にとって自然との関わり的重要性を学ぶ			10	ものや道具に関わる力と保育の実際 思考力の芽を育む保育内容を学ぶ		
4	植物との関わり 動物に関わる力を育む保育内容を学ぶ			11	伝統行事や伝承遊びに関わる保育の実際 伝統行事等の意義を学び、伝承遊びを体験する		
5	保育における野菜栽培 保育で栽培される野菜について学び、栽培する			12	教材研究: 自然・数量・文字・科学・文化・情報 テーマ毎のグループに別れ、保育教材を研究する		
6	動物との関わり 動物に関わる力を育む保育内容を学ぶ			13	保育実践研究: 環境に関連した遊び 学生が研究した遊びを発表し、評価する		
7	石との関わり 石に関わる力を育む保育内容を学ぶ			14	保育内容「環境」の課題と今後 領域「環境」における現代的課題について考える		
評価方法と基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	期 末 試 験	知識・理解	保育内容(環境)に関する基本知識を習得しているか				40%
		思考・判断	保育の基本を踏まえ、子どもと環境の関わりを捉えることができるか				10%
	小 テ ス ト	知識・理解	学習した内容を習得できているか				20%
	平 常 点	態度・志向	積極的な受講態度で学習できたか				10%
課 題	技能・表現	問題解決に向けて主体的に取り組み、レポートを作成できたか				20%	
教 科 書	「保育所保育指針解説」厚生労働省編 フレーベル館						
参 考 書	「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」						
課題・試験等のフィードバック	小テストは次回の授業で返却し、課題はコメントをつけて返却する。 定期試験終了後、解説の時間を設ける。						
予習・復習の内容と時間	授業内容を振り返り、重要なポイントを整理しておく。60分						
免許・資格	幼稚園教諭2種免許状必修科目、保育士資格必修科目、認定ベビーシッター資格必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	授業終了後に教室で質問を受け付ける。						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
EDM-5-M-2	保育内容演習(言葉)	川崎真望子	1	演習	保育	後期	選択
授業の概要とキーワード	領域「言葉」では、こどもたちの言葉を豊かに育むための関わり方を学ぶとともに、人間としての成長や文化の発展について考えることの出来る保育者になることを目指す。 【対話、言葉の発達、児童文化財、言語環境】						
実務経験と教授内容	保育所やこども園での勤務経験を有する教員が現場の実践例を折り込みながら指導を行う。			アクティブラーニング	グループワーク		
関連する DP	【DP2】 専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 技能・表現	領域「言葉」について理解する。						
○ 知識・理解	領域「言葉」に関する保育教材、保育方法を理解する。						
△ 知識・理解	言葉の発達過程の観点から子どもの理解ができる。						
△ 技能・表現	積極的な授業態度を身につける。						
回	授業のテーマ及び内容	各回 100 分					
1	オリエンテーション：保育内容「言葉」のねらい及び授業の目標について理解する	8	言葉と環境：園生活で話す力を育てるための環境づくりについて検討する				
2	領域「言葉」：言葉のねらいと内容について考える	9	書き言葉の発達と保育：書き言葉の発達を支える保育者の役割を理解する				
3	子どもの発達と言葉①：乳児の発達と言葉の獲得について学ぶ	10	幼児の言語活動：言語に関する情報機器及び教材の活用方法を検討する				
4	子どもの発達と言葉②：幼児の発達と言葉の役割について学ぶ	11	言葉に関する課題：子どもに関して配慮を必要とする子どもへの支援を考える				
5	コミュニケーション：言語獲得前のコミュニケーションを育むための働きかけを検討する	12	児童文化財：絵本の読み聞かせや文字に親しむ活動を取り入れた模擬保育の実践				
6	話し言葉の機能と発達：保育内容のねらいにある「日常生活に必要な言葉」について考察する	13	現代社会と言葉：子どもを取り巻く言語環境と現代社会について考える				
7	小学校との連携：領域「言葉」と小学校「国語」との関連性及び連続性を意識した実践の在り方を考察する	14	授業の振り返り：保育実践の最新の動向と模擬保育の省察を踏まえた保育構想の検討をする				
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	期末試験	技能・表現 知識・理解	領域「言葉」に関する基礎知識を修得しているか				50%
	課題	技能・表現	課題に対する適切な解決策が提案できているか				30%
	平常点	技能・表現	積極的な受講態度で学習できているか				10%
	小テスト	知識・理解	学習した内容が理解できているか				10%
教科書	「保育内容「言葉」指導法」 馬見塚昭久/小倉直子 ミネルヴァ書房						
参考書	「0歳～6歳心の育ちと対話する保育の本」加藤繁美 Gakken						
課題・試験等のフィードバック	毎回の授業後に振り返りとしてコメントを記入し提出する。						
予習・復習の内容と時間	予習：次回の授業範囲を予習し、単語の意味等調べておく。課題への準備。30分 復習：授業内容の振り返りをする。30分						
免許・資格	幼稚園教諭2種免許状必修科目、保育士資格必修科目、認定ベビーシッター資格必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	授業終了後に教室で質問を受け付ける						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
EDM-5-M-2	保育内容演習(表現)	井澤正憲	1	演習	保育	後期	選択
授業の概要とキーワード	領域「表現」のねらいや内容を中心に、子どもの表現をどう捉えるか、表現をめぐる保育者の役割、表現を保障する保育のあり方等を、講義や実践を通して学習する。【表現、子どもの造形、子どもの表現】						
実務経験と教授内容	該当なし			アクティブラーニング	グループワーク		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP3】 専門的技能						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 技能・表現	専門的知識を通じた保育の研究、実践、改善をすることができる。						
○ 知識・理解	領域「表現」のねらい・内容に則り、子どもの表現を把握することができる。						
△ 技能・表現	子ども一人ひとりを大切に表現力を培うための実践ができる。						
△ 知識・理解	子どもを主体にした多様な保育ができる。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100分			
1	オリエンテーション 私たちが表現することと子どもが表現することの違いや、関連性について。			8	造形的な表現の計画と題材研究③ 題材研究の実践2 実践		
2	幼稚園教育要領のねらいと内容① 幼稚園教育要領における「表現」のねらいについて			9	子どもの表現の理解① 子どもの表現における特徴と様式1 子どもの「描く」活動の発達段階について。		
3	幼稚園教育要領のねらいと内容② 幼稚園教育要領における「表現」の内容について			10	子どもの表現の理解② 子どもの表現における特徴と様式2 子どもの絵の様式について。		
4	保育所保育指針のねらいと内容① 保育所保育指針における「表現」のねらいと内容について。			11	子どもの表現の理解③ 子どもの表現における特徴と様式3 子どもの「つくる」活動の発達段階と特徴について。		
5	保育所保育指針のねらいと内容② 保育所保育指針における1歳～3歳児未満の子どもの「表現」のねらいと内容について			12	子どもの表現の課題① 子どもたちをめぐる表現に関する環境の変遷と課題について。		
6	造形的な表現の計画と題材研究① 幼稚園教育要領・保育所保育指針に基づく表現的な活動と計画について			13	子どもの表現の課題② 子どもたちをめぐる表現に関する課題に基づいた題材の開発について。		
7	造形的な表現の計画と題材研究② 題材研究の実践1 計画			14	まとめ これからの「表現」の展望と課題について。		
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	期末試験	技能・表現	「表現」に対する思考力が身に付いているか。				50%
		知識・理解	子どもの表現における知識と課題を理解しているか。				10%
	課題	知識・理解	子どもの表現を理解し、計画と実践に活かされているか。				30%
平常点	技能・表現	積極的に学ぼうとする姿勢が身についているか。				10%	
教科書	特になし(適宜プリントを配付する)。						
参考書	「保育内容表現[第2版]」中川香子・清原知二編 みらい						
課題・試験等のフィードバック	授業内容のまとめをもとに、ディスカッションを行う。						
予習・復習の内容と時間	各回の授業内容をまとめ、内容を理解し、次回の授業に活用できるようにする。120分						
免許・資格	幼稚園教諭2種免許状必修科目、保育士資格必修科目、認定ベビーシッター資格必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	授業後の放課後に研究室にて対応する。その場合事前に伺いを知らせること。						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
CAE-5-M-2	ボランティア論	桑原徹也	1	演習	保育	通年	必修
授業の概要とキーワード	<p>ガイダンスにて、ボランティアに参加する意義や目的、留意点等について説明する。その後、大学認定の主に和歌山の地域におけるボランティア活動に積極的に参加し、振り返りのレポートを作成する。また、まとめとして全体活動の総括を行う。 【障害者スポーツ、障害児・者施設、子育て支援、地域活動、啓発活動】</p>						
実務経験と教授内容	社会福祉施設での勤務経験を有する教員が、その経験を活かして、学生の活動に対する助言を行う。			アクティブラーニング	フィールドワーク		
				地域の学修	○		
関連する DP	【DP1】キリスト教的倫理観、教養・知性、汎用的技能						
学修成果の領域	学生 の 到達 目 標						
◎	態度・志向	キリスト教の教えに根ざした奉仕の精神を養うことができる。					
○	態度・志向	各自の役割を、責任を持って果たすことができる。					
△	技能・表現	地域の人々や仲間と協力し、連携をとった行動ができる。					
△	態度・志向	活動経験を通じて自らを育てる向上心を養うことができる。					
授 業 の テ ー マ 及 び 内 容							
<p>1. ガイダンス(100分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア活動の意義・目的を学習する。 ・ 学校認定のボランティア活動について把握する。 ・ ボランティア活動への参加方法や流れを把握する。 ・ ボランティア活動に参加する際の留意事項について理解する。 ・ 参加した活動に関するレポートの書き方や提出方法を理解する。 <p>2. ボランティア活動への参加(20時間以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各自、ボランティア活動に参加する。 ・ 参加した活動ごとに振り返りのレポートを提出する。 <p>3. まとめ(100分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加した活動を振り返り、総括を行う。 							
評価方法と基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	平 常 点	態度・志向	カトリック精神に根ざした奉仕の精神が身についているか				50%
		態度・志向	積極的に学ぼうとする姿勢が身についているか				30%
課 題	技能・表現	地域の人々や仲間と協力し、連携をとった行動ができる				10%	
	態度・志向	対象者を理解し、尊厳を持った対応ができていますか				10%	
教科書	特になし						
参考書	「ボランティア論 「広がり」から「深まり」へ」 柴田謙治・原田正樹・名賀亨 編 みらい						
課題・試験等のフィードバック	課題のなかの特徴的な見解や誤解についてコメントする。						
予習・復習の内容と時間	予習:参加するボランティア活動について概要を事前に調べておく。30分 復習:活動内容を振り返り、成果を活動レポートにまとめる。30分						
免許・資格	特になし						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	毎週火曜日 昼休憩時間 桑原研究室へ直接						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
TPR-5-M-4	教育実習	小笠原眞弓	5	実習	保育	通年 (前期)	選択
授業の概要と キーワード	<p>実習を体験することを通して、保育の理論と実践の統合という保育学の目標を見据えながら、保育者を目指す者としての心得と保育者としての基本的姿勢について学ぶ。授業の時期や内容については、状況に応じて柔軟に対応する。</p> <p>11月に8日間、附属幼稚園や主に和歌山県下の幼稚園・子ども園において実習を行う。※事後指導として実習終了後、面接指導を行う。最終評価は2年後期に行う。</p> <p>【幼稚園、認定こども園、子ども理解、観察・参加実習】</p>						
実務経験と 教授内容	幼稚園において実習を行う。			アクティブラーニング	実習		
				地域の学修	○		
関連する DP	【DP4】統合的な学習経験と創造的な思考力						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 思考・判断	学習経験と実践を統合し、子ども理解や状況に応じた対応ができる。						
○ 知識・理解	実習体験を通して、子ども理解を深める。						
△ 知識・理解	子どもを理解し愛情を持って、誠実かつ公平に関わることができる。						
△ 技能・表現	様々な活動の場面で適切に子どもと関わるができる。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 50分			
1	オリエンテーション 教育実習の実施方法・意義・目的を学ぶ。 幼稚園の理解						
2	実習記録の書き方 I 記録の意義を理解する。						
3	実習記録の書き方 II 書き方の要点を学ぶ。						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
TPR-5-M-4	教育実習	小笠原眞弓	5	実習	保育	通年 (後期)	選択
回	授 業 の テ ー マ 及 び 内 容	各回 50 分					
4	実習に向けてオリエンテーション 実習までの流れと手続き	11	実習体験の整理Ⅰ 実習を振り返り、自己評価と新たな課題を探る。				
5	DVD「幼稚園教育実習」 実習をイメージし、子どもの関わり方を学ぶ。	12	実習体験の整理Ⅱ 実習を振り返り、学びを共有する。(グループワーク)				
6	実習記録の作成 よい記録を書くための留意点を学ぶ。	13	実習体験の整理Ⅲ 園毎に学びの発表を行う。(私立幼稚園)				
7	実習の手続き 実習参加に必要な手続きについて理解する。	14	実習体験の整理Ⅳ 園毎に学びの発表を行う。(公立幼稚園)				
8	実習課題の設定 実習を通して何を学ぶのかを明確にする。	15	責任実習 指導案の立て方についてⅠ 主活動の内容とねらいについて				
9	実習の心構えの理解 実習園オリエンテーションの目的を学ぶ。	16	責任実習 指導案の立て方についてⅡ 導入、展開、まとめについて				
10	直前ガイダンス 実習に向けての心構えを確認する。						
評価方法 と 基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	そ の 他	思考・判断 知識・理解	適切な対応や判断ができるか、実習先担当者の記録を参考に評価する 保育について学んだ知識を理解し、活用できているか実習先担当者の記録を参考に評価する				50% 20%
	課 題	知識・理解	子どもを理解し、適切に対応する力が身についているか				20%
	平 常 点	技能・表現	保育を振り返り、改善に向けて自己研鑽できるか				10%
教 科 書	「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド」太田光洋 編著 ミネルヴァ書房 「実習日誌の書き方」相馬和子・中田カヨ子 編 萌文書林 「幼稚園教育要領」フレーベル館、本学規定の実習記録ファイル						
参 考 書	専門教育科目の各テキスト						
課題・試験等の フィードバック	実習終了後、個別面談を行い今後の課題を明確化する。						
予習・復習の 内容と時間	予習:絵本、手遊び、折り紙、歌い弾きなど実習に役立つ保育技術の習得に努力すること。60分 復習:学内の授業や実習体験の振り返りを整理し、記録にまとめる。60分						
免許・資格	幼稚園教諭2種免許状必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	いつでも研究室へ直接						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
WPR-5-M-3	保育実習 I	西原弘 金谷有希子	4	実習	保育	後期 集中	選択
授業の概要と キーワード	2月・3月に、主として和歌山県下の保育所及び福祉施設において、それぞれ10日間(かつ80時間以上)、合計20日間の実習を行う。最終評価は2年後期に行う。『複数教員担当方式』 【保育実習、保育所、認定こども園、児童福祉施設、社会的養護、障害児保育】						
実務経験と 教授内容	実習先において、保育士による指導を受ける。			アクティブラーニング	実習		
				地域の学修	○		
関連する DP	【DP4】統合的な学習経験と創造的な思考力						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎	思考・判断	これまでの学修経験と実践を統合して、子ども・利用者を理解し適切な対応ができる。					
○	知識・理解	保育に関する専門的知識を習得し、保育現場でひとり一人の生活や状況に応じて適切に対応できる。					
△	知識・理解	子ども・利用者を理解し、愛情を持って誠実、公平に関わることができる。					
△	技能・表現	心に寄り添う共感力を背景に、子ども・利用者の自主性を重視した支援ができる。					
<p><実習の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所・児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ・観察や子どもとの関わりを通じて子どもへの理解を深める。 ・既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 ・保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。 							
評価 方法 と 基 準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
		そ の 他	思考・判断 知識・理解	(実習先担当者の記録を参考に評価する) 常に明るく安定した態度で、公平に子ども・利用者に接することができたか 子ども・利用者の最善の利益を考え、ひとり一人に応じた保育ができたか			
	課 題	知識・理解	子ども・利用者を理解し、状況に応じて適切な対応ができたか				10%
		技能・表現	自分を振り返り、適切な文章表現を用いて、レポートを作成できるか				10%
教 科 書	「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド[第3版]」太田光洋編著 ミネルヴァ書房 「幼稚園・保育所実習 実習日誌の書き方(第2版)」相馬和子・中田カヨ子編 萌文書林 本学規程の実習記録ファイル						
参 考 書	専門教育科目の各テキスト						
課題・試験等の フィードバック	実習中の巡回指導及び実習後に個別面談を行う。						
予習・復習の 内容と時間	実習先についてよく調べ、保育技術の修得に努める。(手遊び、歌い弾き、絵本の読み聞かせ等)						
免許・資格	保育士資格必修科目、認定ベビーシッター資格必修科目						
受講要件等	保育実習指導 I の受講を必修とする。						
オフィスアワー等	実習用携帯電話にて対応を行う(7:00~19:00)						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
WPR-5-M-3	保育実習指導 I	西原弘 金谷有希子	2	演習	保育	後期	選択
授業の概要とキーワード	実習を円滑に進めていくために保育に関する理論と実技の意義・目的を理解する。実習の内容を理解し、実習までの準備や心構えを学び、実習の課題を明確にする。授業の時期や内容については、状況に応じて柔軟に対応する。最終評価は2年後期に行う。 『オムニバス形式』【実習事前指導、保育所実習、施設実習】						
実務経験と教授内容	児童相談所勤務経験を有する教員(西原)が、施設実習について、現場の実践事例を織り込みながら授業を行う。	アクティブラーニング	プレゼンテーション				
関連する DP	【DP2】 専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎	知識・理解	子ども・利用者を受け入れ、状況に応じた適切な対応ができる。					
○	知識・理解	子ども・利用者に誠実、公平かつ責任感を持って関わる姿勢ができる。					
△	思考・判断	子ども・利用者を理解し、一人ひとりを大切にしたい保育を実践する。					
△	技能・表現	子ども・利用者の心に寄り添う共感力を背景に保育を展開できる。					
回	授業のテーマ及び内容						各回 100 分
1	保育実習指導 I の理解(西原・金谷) ～保育実習の意義と目的～(西原・金谷)		8	施設実習について(3)(西原) ～子どもや利用者が持つ様々な障害への理解～			
2	保育実習について(1)(金谷) ～保育実習の理解「実習生の1日」～		9	施設実習について(4)(西原) ～多職種連携について～			
3	保育実習について(2)(金谷) ～子どもの発達特徴0・1・2歳児～		10	実習の心構えと留意点(西原・金谷) ～必要な手続き・オリエンテーションの目的と心得～			
4	保育実習について(3)(金谷) ～子どもの発達特徴3・4・5歳児～		11	実習施設の理解(西原・金谷) ～実習に向けて2年生との交流会をもつ～			
5	保育実習について(4)(金谷) ～指導計画案の立て方、観察、記録及び評価～		12	保育技術・養護技術の実践(金谷) ～授乳の仕方・オムツ交換～			
6	施設実習について(1)(西原) ～児童福祉施設等における保育士の役割～		13	和歌山県における保育の現状と課題(外部講師) ～現状を知り、保育士として求められる役割を学ぶ～			
7	施設実習について(2)(西原) ～子どもや利用者か抱える問題への理解～		14	実習課題の設定と直前ガイダンス(西原・金谷) ～課題を文章化し、意識とマナーの確認をする～			
評価方法と基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	課 題	知識・理解	子ども・利用者を理解し、状況に応じて適切な対応ができたか				40%
		技能・表現	適切な文章表現を用いて、レポートを作成しているか (発表において)				10%
	そ の 他	知識・理解	子ども・利用者に誠実、公平かつ責任感を持って関わる事ができたか				30%
思考・判断		子ども・利用者の最善の利益を考え、一人ひとりに応じた保育ができたか				10%	
平 常 点	知識・理解	子ども・利用者のニーズがわかり、必要な知識や技術について積極的に学ぼうとしているか				10%	
教 科 書	「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド[第3版]」太田光洋編著 ミネルヴァ書房 「幼稚園・保育所実習 実習日誌の書き方(第2版)」相馬和子・中田カヨ子編 萌文書林 本学規程の実習記録ファイル						
参 考 書	専門教育科目の各テキスト						
課題・試験等のフィードバック	・課題は次の授業で返却し、記載内容について感想や気づいた点について触れる。 ・発表終了後、授業の終わりに講評を行う。						
予習・復習の内容と時間	各講義終了後、学習内容を復習する(90分)とともに、次の講義への準備を行うこと。(関連する専門教育教科の振り返り60分、教科書を読み込み、用語の意味をまとめる90分)						
免許・資格	保育士資格必修科目、認定ベビーシッター資格必修科目						
受講要件等	保育実習 I・II・IIIを受けるための必修科目である。						
オフィスアワー等	放課後 及び 事前に予約した日時						